

## 目 次

はしがき

### 序 章 フィリピンにおける 権威主義体制の負の遺産と文民優位 I

——問題の所在と分析の視角——

- 1 民主化後のフィリピンにおける国軍と政治：本書の課題 1
  - 1-1 なくならない国軍の政治介入 1
  - 1-2 権威主義体制の負の遺産としての国軍 3
- 2 分析の視角 5
  - 2-1 文民優位 5
  - 2-2 軍部の政治関与と政軍関係：なぜ政治関与するのか 7
  - 2-3 民主主義の制度と実態 12
- 3 本書の構成 17

### 第1章 文民優位の伝統とマルコス政権期の政軍関係 26

——エリート民主主義と独裁政権のなかの国軍と政治——

- 1 文民優位の伝統——エリート民主主義と国軍 26
  - 1-1 植民地経験と国軍の起源／文民主導の独立・文民統治の歴史 26
  - 1-2 伝統的な国軍の任務：国内の反乱鎮圧 28
  - 1-3 エリート間政治と国軍 29
  - 1-4 国軍将校と政治家のイデオロギー・利害の同質性 32
- 2 マルコス戒厳令体制への布石：国軍の権力基盤化 34
  - 2-1 国軍との関係強化と政治利用 34
  - 2-2 国軍の役割拡大 35
- 3 マルコス戒厳令体制と国軍：歪む文民優位 36

- 3-1 戒厳令とマルコス体制 36
- 3-2 統治と政治における国軍の役割拡大／忠誠と報奨の関係 38
- 3-3 国軍の近衛兵化 39
- 4 国軍の亀裂と改革派の登場：歪んだ文民優位の帰結 41
  - 4-1 国軍の亀裂・不満 41
  - 4-2 国軍改革派の登場と政治家の接近 42
  - 4-3 マルコス体制の崩壊 44
- 5 国軍の政治化 45

## 第2章 文民優位回復への苦闘——54

——アキノ政権期の国軍の反発——

- 1 クーデタとアキノ政権の危機 55
  - 1-1 脱マルコスと国軍内派閥 55
  - 1-2 アキノ政権に対する国軍の不满 56
  - 1-3 脅威認識と対共産主義勢力政策への不满 58
- 2 国軍への依存と政策転換——安定化のために 60
  - 2-1 アキノ大統領の政策転換 60
  - 2-2 ラモス派の台頭 61
- 3 クーデタと国民世論——介入の機会・意志の不在 63
  - 3-1 介入の機会の不在 63
  - 3-2 介入の意志の不在 64
- 4 RAMとYOUの模索——政治社会での居場所を求めて 65
  - 4-1 活動の行き詰まり 65
  - 4-2 政治社会への参入の試み 66
  - 4-3 YOU：反エリート民主主義 68

## 第3章 民主制度の再生と文民優位——75

——国軍の利益と議会政治——

- 1 政－軍接触の公式の場——議会と国防省 76
- 2 国軍と議会政治（1987-1990）——国内安全保障関連の政策決定と国軍 78

- 2-1 主張する議会 78
- 2-2 CAFGU の動員 80
- 2-3 バランガイ選挙の延期 81
- 2-4 警察軍の解体 82
- 2-5 国軍利益と民主制度・エリート民主主義 83
- 3 国軍と議会政治(1990-2000年代)——国軍近代化法制定過程と実施局面 85
  - 3-1 共産主義勢力の退潮 85
  - 3-2 選挙職への退役軍人の進出：1992年選挙 86
  - 3-3 国軍近代化法制定過程の政軍関係：「近代化」の意味をめぐって 87
  - 3-4 国軍近代化予算・国防予算のトレンド 90
- 4 国軍と国防省——文民優位の間隙 92

## 第4章 国軍の開発における役割の制度化—— 99

——ラモス政権と国軍——

- 1 ラモスと国軍：国軍の掌握 99
  - 1-1 ラモス政権の課題 99
  - 1-2 残存する不安定要素としての国軍：ラモスと国軍 100
  - 1-3 ラモスの国軍掌握手法 102
- 2 国軍反乱派の政治社会への統合——政治的安定化に向けて 103
  - 2-1 国軍反乱派への恩赦 103
  - 2-2 選挙への参加：政治社会への統合 105
  - 2-3 国軍反乱派の免責：政治的安定化の代償 107
- 3 国軍の開発任務の制度化・拡大——ラモス政権の開発政策と国軍の開発参加 108
  - 3-1 ラモスの開発志向と国軍 108
  - 3-2 国軍近代化法とラモス 109
  - 3-3 作戦計画 Unlad Bayan：反乱鎮圧から国家建設へ 111
- 4 政府・官僚機構への退役軍人の進出 113
  - 4-1 国軍掌握と政府・官僚機構への退役軍人の任命 113
  - 4-2 開発との関連 116
  - 4-3 「弱い国家」と国軍の役割：ホセ・アルモンテの考え 118

## 第5章 国軍将校と政治家の個別的関係の形成—— 126

——国軍人事と文民優位の陥穽——

- 1 選挙における政治家と国軍将校 127
- 2 国軍将校の昇進と政治家の権限——議会任命委員会 128
  - 2-1 国軍将校の昇進と議会任命委員会 128
  - 2-2 フィリピンの政軍関係と任命委員会：先行研究における言及 129
  - 2-3 民主化後の任命委員会：アキノ政権期を中心に 131
  - 2-4 民主主義の定着と文民優位の逆説 134
- 3 フィリピン士官学校名誉同期生 137
- 4 国軍人事の規則・慣習と大統領の権限 140
  - 4-1 国軍人事の規則・慣習 140
  - 4-2 大統領の権限 141
  - 4-3 人事による国軍掌握の危険性 142

## 第6章 エドサ2の衝撃—— 147

——エストラダ政権期の政軍関係——

- 1 エストラダ政権と文民優位促進の試み 148
  - 1-1 官僚機構の「文民化」 148
  - 1-2 退役軍人との不和 151
- 2 政治化を深める国軍・国家警察人事 152
- 3 エストラダ政権の危機・崩壊と国軍の動向 157
  - 3-1 エストラダ政権の危機 157
  - 3-2 退役軍人の動き 158
  - 3-3 国軍内における反エストラダの動きと政治家との接近 159
  - 3-4 国軍の支持撤回：エストラダ政権の崩壊 161
  - 3-5 報奨と粛清の人事 163
- 4 政治介入の正当化——「『国民、国家の守護者』としての国軍」 165
- 5 エストラダ政権とRAM・YOU 167
  - 5-1 政権中枢へ 167
  - 5-2 「エドサ2」と「エドサ3」：RAMの分裂 168

## 6 「エドサ2」の衝撃 171

## 第7章 忠誠と報奨の政軍関係——177

——アロヨ大統領の国軍人事と政治の介入——

- 1 ポスト・エドサの政治的文脈と政軍関係 178
- 2 忠誠と報奨——国軍掌握とアロヨ大統領の人事 181
  - 2-1 アロヨ大統領の課題 181
  - 2-2 論功行賞人事 182
  - 2-3 フィリピン士官学校同期生 184
  - 2-4 国軍参謀総長人事 186
  - 2-5 退役後の政府ポストへの任命 187
- 3 アロヨ大統領の国軍人事の陥穽 187
- 4 大統領選挙での不正疑惑と国軍人事 190
  - 4-1 大統領選挙での不正疑惑と国軍幹部 190
  - 4-2 報奨と懲罰の人事 191
  - 4-3 国軍内の不満 193
  - 4-4 クーデタ未遂事件の発生 194
- 5 78年組の台頭と大統領選挙 195
  - 5-1 78年組の台頭 195
  - 5-2 政治介入の懸念 198
  - 5-3 政権維持と国軍人事 199

## 第8章 国軍の国内安全保障における役割——203

——反乱鎮圧作戦と開発任務——

- 1 国軍任務転換の試みと安全保障環境——反乱鎮圧と対外防衛 204
  - 1-1 安全保障環境の変化と国軍幹部の認識 204
  - 1-2 国家警察の設立と反乱鎮圧任務の移管 205
  - 1-3 国軍への反乱鎮圧任務の再移管 206
- 2 国軍の開発任務——反乱鎮圧作戦のアプローチ 209
  - 2-1 国軍の開発任務：反乱鎮圧作戦と「総合的アプローチ」 209

- 2-2 開発局面への参加強化の傾向 211
- 3 反乱鎮圧作戦における非戦闘任務——民軍作戦の諸要素 214
  - 3-1 民軍作戦（CMO） 214
  - 3-2 特別作戦チーム（SOT） 215
  - 3-3 コミュニティ開発の強化・制度化 218
  - 3-4 インフラ整備 220
  - 3-5 政府の貧困対策への収斂と制度化：アロヨ政権期 220
- 4 開発任務の影響——国軍の政治化と文民優位の侵食 224
  - 4-1 国軍の政治化 224
  - 4-2 文民優位の侵食 225
  - 4-3 国軍・文民機関双方の本来の役割への影響 226

## 第9章 アロヨ政権期における反乱将校のクーデタ事件——232 ——不変の介入の意向と拡大する介入の機会——

- 1 国軍若手将校の不满——反乱の不変の要因 233
  - 1-1 オークウッド事件 233
  - 1-2 国軍若手将校の反乱の要因 234
  - 1-3 13年前の勧告 235
- 2 政権転覆の企てとホナサンの影 238
- 3 続くクーデタ事件 241
- 4 介入の機会の拡大と活用——国軍の政治介入の社会的容認 244
  - 4-1 介入の機会の拡大と迎合：アロヨ大統領の信頼低下 244
  - 4-2 国軍の介入に対する社会的容認 247
  - 4-3 憲法条項引用の定着化 249
- 5 アキノ3世政権下での恩赦 250

## 終章 文民優位の逆説と改革の可能性——256

- 1 文民優位の逆説 256
  - 1-1 文民優位の諸相 256
  - 1-2 国内安全保障における国軍の役割と文民優位 258

1-3	政治における国軍の役割	260
1-4	反乱将兵とクーデタ事件	262
<b>2</b>	<b>改革にむけて：アキノ3世政権下の取り組みと市民社会</b>	<b>264</b>
2-1	治安部門改革と市民社会	264
2-2	アキノ3世政権と国軍の国内平和安全保障政策「バヤニハン」	266
2-3	改革の背景：国家の応答性	270
2-4	市民社会の参加	276
2-5	可能性と課題	278

参考文献

あとがき

索引